

## 単元計画書

教科名(科目名)		単位数	
対象クラス		教科担当者	
単元名		単元の実施時期	○月○旬～○月○旬
単元目標 (学習指導要領)			
1	生徒の実態と単元観		
	<p>目の前の生徒たちの実態を捉え、また、単元の内容や特長、重点を把握し、単元の学習指導が終わったときに、どのような生徒になっているか(なっていてほしいか)を想像する。そうすることで、評価規準、指導内容、指導方法、パフォーマンス課題、ルーブリックなどが明確になる。</p>		
2	評価規準		
	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能
	④知識・理解		
	<p>学習指導要領の単元目標に基づき、生徒の実態と単元観に照らし合わせて、目の前の生徒たちに合った具体的な観点別の評価規準を決める。 より具体的な目標を決めることにより、パフォーマンス課題(課題学習の課題)、ルーブリック、毎授業の指導内容・評価方法が明確になる。</p>		
3	パフォーマンス課題について		
	重点目標	身に付けさせたい知識・技能	
	<p>評価規準の中で、知識・理解、技能を中心とした評価(定期考査など)では評価しにくいような観点は何かを考え、パフォーマンス課題で測りたい観点は何かを決める。</p>	<p>単元の内容の知識・技能のうちで、活用させたい知識・技能は何かを決める。 活用することで、より深い理解につながる。</p>	
	パフォーマンス課題の内容		指導方法・形態
	<p>数学におけるパフォーマンス評価の要件は、次の四つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考のプロセスを表現することを要求する。</li> <li>・多様な表現方法(式、言葉、図、絵など)が使うことができる。</li> <li>・真実味のある現実社会の場面を扱っていて、そこから数学化するプロセスを含んでいる。</li> <li>・複数の解法がとれる(オーブンプロセス)。</li> </ul>		<p>パフォーマンス課題に対して、主体的・対話的で深い学びを実現するための最善の学習形態を考える。 どの場面をどのように評価するか、何を評価するか、ということを考えて、指導方法を考える。 生徒たちが自力で解決できるよう支援する(教員がファシリテータ(支援者)となる)。</p>

4	パフォーマンス課題のルーブリック									
	段階	観点1 ( )			段階	観点2 ( )				
	5	<p>・作成について</p> <p>パフォーマンス課題のルーブリック(評価の判断の基準)は、単元計画の際に作成する(教員、生徒ともに、単元の目標を意識しながら取り組むため)。</p> <p>課題に対して、生徒がどのような結果をもたらすか、可能な限り予想して、段階ごとの基準を具体的な言葉(あるいは数値)にする。</p> <p>事前に生徒に示す場合は、単元の学習の指針となるような表現で提示する。</p>			5	<p>・評価をするときは</p> <p>パフォーマンス課題を実施した後、生徒の作品(ワークシートなど)を見て、評価の判断の基準の妥当性を確認する。適宜、より具体的な言葉(あるいは数値)を付け加えたり、場合によっては修正したりする。</p> <p>目の前の生徒の状況が、測りたい力に対してどの段階にあるかということが、教員も生徒もよく分かるような評価を目指す(生徒への有効な還元となるように)。</p>				
	4				4					
	3				3					
	2				2					
1	1									
5	育成したい能力(キャリア教育の観点から)									
	○○力	<p>パフォーマンス課題に取り組むことで育成したい汎用的能力は何かを考える。具体的には、問題解決力、課題発見力、判断力・表現力、論理的思考力、分析力・応用力などである。</p> <p>その単元の本質や社会に出てからの必要性に基づいて決める。</p>								
	○○力									
	○○力									
6	授業計画				評価計画					
	時数	小単元	主な学習内容・活動			①	②	③	④	評価の方法等
			<p>知識・理解、技能を中心とした評価(例えば定期考査の問題)、思考・判断・表現(数学的な見方や考え方)を評価するパフォーマンス課題(課題学習の課題)とそのルーブリックを決めた上で、授業計画を立てる。これにより、時間配分(時間をかけて指導する内容はどこか)、授業ごとの指導方法や評価方法などを考える。</p>			<p>観点別の評価規準が明確になっていれば、毎授業の観点別評価の内容と方法が考えやすい。</p> <p>小単元ごとの観点については、その小単元で一番重視する観点を絞り込む(○を付ける観点は1~2程度にする)。</p> <p>評価の方法はなるべく具体的(観察による評価ならどのような観察をすればよいか、評価するものは何か)に考える。例えば、振り返りシートの活用などは、関心・意欲・態度の評価として効果的である。</p>				
		定期考査								
		パフォーマンス課題(課題学習)								